

平成26年度 全校研究

- I 全校研究主題
- II 主題設定の理由
- III 研究の目的
- IV 研究の実践(1年次)
 - 全校研究
 - (1)縦割りグループ研究会
 - (2)全校授業参観、研究会
 - (3)他学部授業参加、寄宿舎指導員授業参観
- V 2年次に向けて

I 全校研究主題

**「児童生徒の充実した生活をめざして
～小中高・舎をつなげる取組～」**

（2年次研究 1年目）

Ⅱ 主題設定の理由

<学校教育目標>

一人一人が光り輝き、心豊かにたくましく生きる人間を育てる。



学校教育目標の「光り輝き、心豊かにたくましく生きる」ことを充実した生活ととらえ、児童生徒が現在と将来において充実した生活を送ることを目指し、教育活動を行う必要がある。

児童生徒が現在もっている力やニーズに合った適切な目標や指導内容が設定された授業に取り組むことで、達成感や充実感を感じる事が可能である。それが現在の生活を充実させ、そのような経験を積み重ねていくことが将来の充実した生活につながると考える。

また、小学部から高等部へと目標や指導内容などに継続性・発展性をもたせることで、ステップアップし成長していく充実感を児童生徒自身が感じることができると考える。そのためには、各学部・舎が目標や指導内容、支援方法などにつながりをもたせ、共通理解のもと授業や指導に取り組むことが重要であると考え、本テーマを設定した。

Ⅲ 研究の目的

各学部・寄宿舎間において指導目標や指導内容、支援方法などのつながりを意識し、継続性や発展性を図ることで、児童生徒の現在と将来の充実した生活を目指す。

IV 研究の実践(1年次)

:『目標や指導内容』のつながり

全校研究

- (1) 縦割りグループ研究会
- (2) 全校授業参観、研究会
- (3) 他学部授業参加、寄宿舎指導員
授業参観

全校研究 (1)縦割りグループ研究会

○9月、10月、11月

小中高職員がワーク、ライフの2グループに分かれて実施

・それぞれ作業学習、生活単元学習の年間指導計画を持ち寄り、情報交換・意見交換を行った。

○12月

小中高、寄宿舎職員がワーク、ライフの2グループに分かれて実施

・寄宿舎の重点指導目標について意見交換、寄宿舎職員の事例研究についてワークショップで意見交換を行った。

ワーク

グループ研究会で話し合われた意見

小学部 への 意見

・小の生単で「ワーク」の要素が含まれる単元の、中とのつながりの確認

①畑仕事、もの作りなどの作業学習につながる単元

②手指、道具を使う単元

③ルール、マナーなどの単元

④役割・組織を意識できる単元

・調理、ルール、マナーなどに関わることは、発展のさせ方でワークにもライフにも含まれてくる。

・他学部の先生、外部講師に教えてもらう授業→専門的な技術を用いたやりがいのある活動、完成度の高いものを作る経験を積むことで満足感、達成感につながる。

・児童の「気づき」がある活動が「主体性」を育てる。

・（中学部からの販売する活動の前段階として）自分達に必要なものを作ったり、プレゼントをして喜んでもらうことで働く喜びを感じることができる活動を入れていったらよいのではないか。

<p>中学部 への 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学部として、作業班で目標をそろえた方がよい。 →「作業学習の進め方（全作業班の共通事項）」（＝学部運営計画のねらい）をふまえ、「物を作る喜び」「作業態度、習慣の育成」「基本的な知識、技能の習得」の3つの視点で年間目標を設定する。 ・ 販売活動につなげる単元の組み立てを考えていった方がよい。（光陵祭、校外作品展、校内販売にむけた流れ） ・ 働く体力、持続力がつくような活動（作業量、作業時間、難易度）を設定をしていった方がよい。
<p>高等部 への 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての班で目標がほぼ統一されているので、どの班で経験しても必要なことが身につく。 ・ それぞれの班が、1年間の中でステップアップしていけるように、単元・活動が考えられている。 ・ 「（ワークの視点で）卒業までに身につけたいこと」（別紙資料1）の高等部段階のことが盛り込まれているか、確認しながら進めていく必要があるのではないか。

全体を
通して
の
意見

・活動ステージの発展

(小) 「学級学年単位」 (身近な仲間) → (中) 「グループ」 (経験値が違う先輩後輩のような縦割り) → (高) 「専門的な班」 (同じ製品について追及していく集団) のようになっていっている。

・それぞれの段階における主体性

(小) 自分の喜び「やった」「できた」 → 「またやりたい!」、 (中) 身近な人に喜んでもらう → 働く喜び、 (高) 販売の喜び → 仕事の質を高める

・挨拶、報告、質問 (連絡、相談) は、どの段階においても大事。

・道具の使い方、衣服の畳み方、着替えの手順、掃除の仕方などは、小から高まで決まったやり方で続けていけるように、共通理解できるとよい。

・学部を超えて、生徒・職員が相互に関わることができる内容が (さらに) 展開できると良い。

1 生活単元学習年間指導計画 年間目標について

小	<ul style="list-style-type: none"> ・「体験する」ということがメインになっていると思った。
中1	<ul style="list-style-type: none"> ・1～3年生の目標の系統性を確認し、方向づける必要がある。 ・中2からマナー、ルールが入ってきている。中1も入れた方がよい。 ・目標項目が3つの学年と4つの学年があるのでそろえ、目標の発展性を考慮してはどうか。
中2	
中3	
高1 ～3	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部のキーワード（学部目標）と生単年間目標の関連が見えない（キャリア全体計画の生単の目標にはキーワードとの関連性がみられる）。中学部での「知識」を生かして、「自己選択・自己決定」できるように。 ①知識や技能を生かし、自分たちで計画・実行する ②自主的・主体的活動を行えるようにする。 <p>これらのようなことが目標の中に見えるようにするとよい。¹⁰</p>

<p>高特</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等部 1 組（特別学級）は、学年とは別に年間指導計画を作成している。また、宿泊学習などの行事においても、通常学級とは別に目標を設定している。
<p>全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中1～3の「身に付ける」を 中1「学ぶ」→ 中2「わかる」→ 中3「生かす、広げる」 高1～3の「身に付ける」を 高1「学ぶ」→高2「理解する」→高3「生かし実践する」 段階的に発展する形にしてはどうか。 ・ 小低 「楽しむ・成就感」 小高 「意欲的・成就感」 中 「知識・技能の基礎」 高1～3 「必要な知識・技能・態度、役割意識、責任」 と、学部移行においてはステップアップしている。 ・ 各学部キーワードの要素を重視していく。

2 調理について

小学部	<ul style="list-style-type: none">・小高では手順が大切。一人で作るには何回も経験を重ねることが必要。
中学部	<ul style="list-style-type: none">・中までには調理の基礎を学ぶことが必要。高等部では栄養素がメインになってくるので。・高等部までに身に付けてほしいことは、家での調理経験を豊富にさせる、レシピ（市販の箱の裏など）を見て作ったり、フライパンを使ったりした調理。
全体について	<ul style="list-style-type: none">・目標がステップアップされていない。スタートとゴールを決めて段階を踏むことが必要。・中3に出てくる「食べる喜び」はどの学部学年にも含まれる内容ではないか。・一人で作れるもの（包丁を使わなくてもできるもの）からでもいいのではないか。

3 買い物について

小学部	<ul style="list-style-type: none">・決まったものを買う
中学部	<ul style="list-style-type: none">・予算内での買い物（金額は高等部より低めに設定）を一人でする。
高等部	<ul style="list-style-type: none">・予算内で自分で計画して買い物をする。
全体	<ul style="list-style-type: none">・消費期限や鮮度を教師と一緒に確認する経験。・スーパーの配置などを学校で学ぶ機会をもつ。困った時にどこの誰に聞けばいいのか。サービスカウンターのある場所など知ることも大切である。

4 光陵祭 製品販売について

中学部	・ 来年度からは、販売活動に対する目標も入れる。
高等部	・ 高2も今年、販売活動に対する目標が入っていなかったなので、入れる
全体	・ 中→高の販売活動の流れ（段階）を確認した方がいいのではないか。 ・ 中：買ってもらう事の喜びを体験 → 高：社会のつながりを知る経験、体験

5 校外学習について

全体	・ 共通項で目標をたてるといいのでは。 外での集団行動、マナー、地域を知る（気仙→県内→県外のようにステップアップしていく）など ・ ルールやマナーの中身（系統性や質）についても考えていく。
----	--

成果

- ・年間指導計画において、目標及び内容を学部目標やキャリア教育全体計画と照らし合わせながら、継続性・発展性などを確認することができた。
- ・他学部のねらいや活動内容を知ることができた。
- ・寄宿舎の取組についても知ることができ、またお互いに話し合う機会がもてたことが良かった。

→ 共通理解を図り、各学部がつながりをもつことを考えることができた。

課題

- ・ 来年度の年間指導計画を作成するにあたり、学部内や学部間の系統性がもたれているか、さらに確認が必要である。

→ 「(ワークの視点で)卒業までに身につけたいこと」や、「H26年度生活単元学習年間目標における要素」の表を参考にしながら、各学部段階における目標を意識して作成する。さらに、全校の系統性について確認する場を設定する。

→ 作成した年計をもとに授業実践を行い、小中高のつながりを図ることで、児童生徒の充実した生活を目指すことができるか検証を行う。

全校研究 (2) 全校授業参観、研究会

第1回

小学部

- 6月30日(月)「みんなでとまろう！」
- 内容: 荷物点検

第2回

中学部

- 7月9日(水)「宿泊学習へ行こう」
- 内容: 行き先を調べる

第3回

高等部

- 11月27日(木)「宿泊学習」
- 内容: マナー学習(公共施設・バイキング)

11月研究会で出た意見

○目標については、ステップアップできているのではないか。

○グループの役割や係の役割を果たすという内容が全学部にある。

○小・・・経験、中・・・調べる、高・・・考える などと、内容もステップアップできている。

▲目標の(1)～(3)は優先順位か？項目をそろえてステップアップを分かりやすくすべきか。

▲同じ目的地の場合、目標や内容がステップアップするよう、すり合わせが必要である。

▲入浴指導の統一など、寄宿舍との連携も必要である。

成果

- 同じ単元で行ったことで、授業参観では自分の学部と比較し振り返りながら、参観することができた。
- 研究会においては目標や活動内容などについて、系統性を見たり、意見交換をしたりし、共通理解を図ることができた。

課題

・来年度、宿泊学習の計画時にも、今年度の「宿泊学習・修学旅行各学部・学年の目標における要素」や「校外学習・宿泊学習 行き先・主な活動内容一覧」を参考に、各学部段階での目標や内容について検討する必要がある。

全校研究 (3)他学部授業参加、寄宿舎指導員 授業参観

取組状況

1回目

小へのアンケート	31枚
中へのアンケート	33枚
高へのアンケート	69枚

2回目

小へのアンケート	22枚
中へのアンケート	12枚
高へのアンケート	19枚

成果

- ・各学部の授業の様子を知ることができた。
- ・中高の作業体験を通して、作業に必要な力や、小中高一貫性のある指導について考えることができた。
- ・年に2回実施することで、児童生徒の変容や成長の様子を見ることができた。

課題

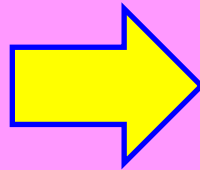
- ・2回目は光陵祭準備・練習期間であったため、時間調整が困難で参観者が少なかった。
- ・小学部への授業参加がなかった。

→ **教務部の実施計画のもと、各学部で調整を行い、なるべく全員が参観・参加できるようにする。**

V 2年次に向けて:主に『支援方法』のつながり

何を

何を教え、何を身に
付けさせたいのか

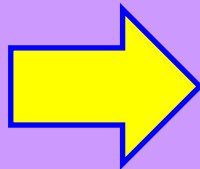


年間指導計画
(個別の指導計画)

1年次

どのように

どう教え、どう学ん
でほしいのか



支援方法
(授業研究)

2年次

2年次に向けて:主に『支援方法』のつながり

(1) 生活単元学習、作業学習「年間指導計画」の全校のつながりの確認

年度初めに各学部で生単、作業の年間指導計画を作成し、学部内でのつながりを確認

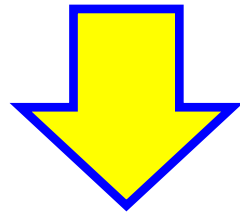
各学部の作成担当者が集まり、系統性について確認

修正点があれば学部に戻し、確認

起案、配付

各学部に対し出された修正点については、第1回全校研究会で全体へ報告

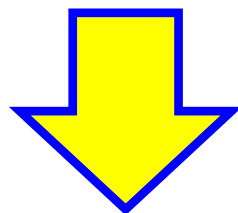
(2) グループ研究会や全校授業研究会で 「支援方法」の全校のつながり



具体的内容について、統一して取り組む

ワーク・・・ 作業学習
ライフ・・・ 買い物

(3)他学部授業参加・参観、寄宿舎指導員授業参観



今年度に引き続き、実施する

+ 寄宿舎参観週間も実施する